

平成24年度 一般選抜中期日程／国際商学科 外国語
出題の意図と解答の傾向

I

問1 (配点：各5点×3=15点)

【解答】

a : first b : not c : not

《答案の特徴および傾向》

a : 「first」

- ・ 3 つの中では、比較的正答が多かったと思われる。
- ・ 誤答の例として、「last」、「previous」、「prepare」、「basic」などが挙げられる。
- ・ また、スペルミスの例として、「frist」、「fast」が挙げられる。

b : 「not」

- ・ 3 つの中では、最も出来が悪い印象を受けた。

c : 「not」

- ・ 誤答の例として、「but」、「and」、「also」などが挙げられる。

問2

1) 模範解答との齟齬という点から気づいた点

- ・ 「大学で学ぶ科目(コース)」では、「科目」と書けた受験生はほとんどいなかった。学部、学科、学問、研究とする者が多くいた。
- ・ 「職業に直接関連するもの」、「選んだ職業」では、career を職業・仕事ではなく経歴、学歴と訳し、「生徒が選んだ経歴」と理解することによって混乱した解答や、「大学は学歴を与える所」という発想から抜け出せないで正しく解答できない受験生が多かった。
- ・ 最も多くの間違った解答は、問題文の prepare 以下を「学生達に選んだ職業のための準備をさせる」と訳せずに、「学生が就職の準備をする」と理解したり、「大学が学生の職業を準備あるいは提供すべき」とするのが多々あった。また、「大学が学生を準備する」という倒産寸前の私立大学を連想させる不気味な解答も少なからずあった。
- ・ さらに、prepare を compare や prefer と勘違いし、「比較する」や「好む」といった言葉を用い、まったく意味不明な日本語の解答が誕生していた。

2) 感想

全体に「本文に即して」という問題文の意味を理解しておらず、自分の解答が正しいかどうかを、This has always been the case for students of law or medicine. の文で確かめるといえることが出来ていないと感じた。

また、多くの高校生が、大学は学生の職業斡旋機関であると信じているためにおこる誤解答に、わかってはいたが嫌悪感を抱いた。

問3

This の内容を問うた設問で、正解例は「昔からある大学で学ぶ科目は、教職を除いて、具体的な職業に結び付いていないこと」である。全体的な解答の傾向としては、問3の出来は芳しくなかった。

<傾向>

1. 指示された This の前のセンテンス全文を訳したものが大部分であった。正解例は、そのうちの because 以下の副詞節の内容であるが、解答の傾向としては主節の「The classic university subject・・・」を含めて記述しているものが8割近くを占めていた。
2. そのうち、because 以下の訳あるいは内容が全くなく、主節の訳だけを解答している答案がかなりあった（全体の3割弱程度）。
3. 主節だけを訳した解答のうち、「～pose the same question,」の部分、前のパラグラフにある「・・・but is university the best place～」を訳して解答している答案も散見された。
4. この This の内容を、次のセンテンスの「A degree in literature or history・・・」を訳して記述している解答も僅かにあった。

<採点基準>

・傾向1について：because 以下の内容に触れているものについては、主節の訳文を無視することにした。但し because 以下の内容（あるいはこのセンテンスを含んだパラグラフ全体の内容）を理解していると思われる解答はほんの僅かだった。

そのため採点は、日本語訳の採点に近くなり、出題の意図に沿えば得点しかねる解答、つまり全体の記述が的外れであっても、「具体的な職業に結び付かない」という部分が、ある程度分かる日本語で書かれているものについては、3点～10点の範囲で採点した。

・傾向2について：傾向1について主節の訳文を無視することにした以上、同様の基準を設けた。その結果、空欄扱いとなり0点とした。

・傾向3について：正解とはならないが、文章全体はよく読んでいるという印象を持ったので、4点～8点の範囲で採点した。（上の基準との比較では若干甘め）

・傾向4について：これも正解ではないが、キャリアと結び付かない大学教育の例として挙げている部分なので、正解に少しはかすっている、またパラグラフ全体についてはある程度理解しているものと判断し、10点前後で採点した。

・その他：because 以下のセンテンスに直接触れずに、ただ「大学はキャリアに結び付く教育をしていないこと」とか「大学の教育は就職に結びつかないこと」といった、間違いとわ言えず、パラグラフ全体を正確には理解していないが、ある程度理解していることを示唆する解答については、15点～19点の範囲で採点した。

問4

【解答例】ラテン語と神学

代名詞 They が指しているものを文脈から判断させる問題。Latin and theology を日本語に直すだけのものであり、なおかつ theology は【注】として載せてあった。にもかかわらず、Latin は別にしても（これなども常識の範囲内であるとは思いますが）出来としては全体的に良いとは言えなかった。

問5

【解答例】大学（在学期間）

This brief interlude between school and work を具体的に指摘させる問題。本文全体が大学のあり様を検討している文章であることを考えれば、school が大学入学以前に通う学校であることは理解できるはず。しかし、それを大学と判断し、大学を卒業して就職するまでの期間と考えた答案も目に付いた。

問6 (1)

配点：25点

【解答例】

「大学を卒業したものは、柔軟に物事を考え、様々な課題（試練・問題）や環境に適応出来るべきである。」

《答案の特徴および傾向》

- ・ 「A graduate」→「卒業」、「大学」、「大学院」と訳している答案がある。
- ・ 「flexibly」→「柔軟に」という訳出が十分できていない答案が見られる。
- ・ 「should」→「～べき」以外に、「～はず」と訳出しているものがある。
- ・ 「challenges」→「挑戦」や「チャレンジ」と訳している答案がある。中には、「chance」と間違えたのか「機会」という訳出も見受けられた。
- ・ 「different」→「違い」や「違った」と訳している答案がある。中には、「difficult」と間違えたのか「難しい」という訳出も見受けられた。
- ・ 「environment」→ほとんどの答案で訳せていた。
- ・ 「adapt」→「adopt」と間違えたのか「採用」という訳出が見受けられた。
- ・ 「and」の前後で文章を分けて解釈すべきところを、文章がごちゃ混ぜになって訳出しているものがある。例として、「柔軟に適応して」、「適応できると考えるべき

だ」、「環境と考えて」などが挙げられる。(副詞がどの動詞に係るのか、形容詞がどの名詞に係るのかといった英文法のルールが十分意識されていないのではないだろうか。)

問6 (2)

The notion of a broad education can sometimes seem economically wasteful, and is therefore underestimated.

【解答例】幅広い教育という考え方は、時に経済的には無駄のように思われることもあり、それゆえに過小評価されている。

単語の勘違いから来る「迷答」も目立った。傾向として「同格」の前置詞 of の理解不足と、notion を notice と勘違いしたものも多かった。さらに、単語帳で覚えたためか「気づき」という日本語が非常に目立ち、教育方法の見直しが必要ではと思った。さらに、broad を board や abroad と勘違いし、「黒板教育」という説明のつかない、苦し紛れの解答も少数ではなかった。

II

問1

<解答例>

- (1) hoped to one day find evidence proving that the Trojan War had really occurred(15点)
- (2) Later, when he was 42 years old, he decided to try to realize his dream by searching for the ruins of Troy.(15点)

<答案の傾向>

- (1) 「見つけることを願った」の箇所で hoped to find/ wished to find と書いておらず、hope found とか wished finding としたもの、またなぜか hoped I found のように主語を I にしたものが結構目立った。

「証明する証拠」の箇所で evidence proving / to prove のように evidence と prove の両方の単語をちゃんと書いたものが非常に少なかった。

「トロイ戦争が本当に起きた」の「起きた」で was happened とした解答が非常に多かった。なぜ be 動詞のあとに happen という動詞を並べようとするのだろうか? 似たようなものでは、was broke out とした間違いも目立った。

- (2) 「後に」の箇所で、After とだけ書いたものが圧倒的に多い。Afterward(s), Later としたものは少なかった。中には Lately と書いたものがあった。

「彼が42歳の時」の箇所で forty-two years old とちゃんと書けないものが多い。特に forty-two という間違ったスペリングが非常に多い。中には forty second years old

としたものもあった。中学校段階での基礎的な学力が身につけていないことを実感させられる。

「トロイの遺跡を探すこと」の箇所も *search the ruins of Troy* という間違いが非常に多い。*Search* (探す場所) *for* (探すもの) という *search* という動詞の基本的な使い方が理解されていない。

「自分の夢を実現させよう」との箇所で *make his dream come true / realize his dream* とちゃんと書けたものが少ない。圧倒的に多かったものは *come true his dream* と書いたものであった。*Dreams come true.* という表現は知っていても、これに応用して *make his dream come true* という形が作れない。これも応用的な基礎能力の欠如を感じさせる。

問2

Overall, while candidates were demonstrating good attempts at using fairly complex language, many of the problems we saw were consistent with previous years.

Many answers started off well, but became unstructured and unfocused. In these cases, it seemed candidates were just writing down as many ideas as they could think of without considering the format of the answer. What we expected was a clear introductory statement stating what option they would choose, followed by two (or more) different reasons to support this, each clearly indicated by discourse markers such as “First...”, “To begin with...”, “Next...”, “Secondly...”, etc. Finally, a short closing sentence such as “For these reasons, I choose option number 1”, or similar.

Other than the tendency towards unstructured, rambling answers, the following issues appeared repeatedly.

Problems with opening sentences

Many candidates had problems with this. Incorrect expressions such as “I vote a plan...”, “I will vote the plan...”, “I (will) choice...” were common. Try to get the opening sentence correct to make a good impression.

Incorrect use of discourse markers for structuring

While it is good that candidates are using discourse markers, they need to be consistent in their use. Also, don't use “Finally...” when you are only introducing two points.

Problems with showing logical consequences

There were numerous situations where candidates confused the logic of their answers. Rather than something like “I choose the first choice. Because of this, I have three reasons.” candidates should answer something like “I choose the first choice. I have three reasons to support this” followed by the reasons.

Spelling problems

Try to be consistent with spelling. Three different spellings of the same word in the same answer is not acceptable, especially if the word is included in the question. Candidates need to carefully check their spelling.

Verb tense problems

Try to be careful here, especially when talking about future possibilities. For example,

“If I went overseas, I would / could...”

NOT “If I went overseas, I will / can...”

Some other common errors included:

- Use of “I have ever + v” when either “I have + v” and “I have never + v” were intended
- Using “experiment” when “experience” was meant.
- Use of “touch” (“*I hope to touch foreign culture*”) rather than “experience” or “encounter”.
- Incorrect use of “famous” to mean “common” or “widely-used”/“widely-known”, etc - for example “*English is a famous language*”; “*India will become more famous*”

Finally, while it was interesting to see candidates try to relate their answers to economic issues, in fitting with the speciality of the university, it is probably best not to try this unless they are able to do so in a compelling manner.